

総務委員会行政視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 委員会名及び視察者名

■ 総務委員会

委員長：畑中 ゆう子

副委員長：中村 千佐江、

委員：徳留 八郎、荒神 稔、神脇 清照、羽田野 徳寿、綿屋 善明

2 視察先・テーマ及び日時

■ 令和4年12月20日（火）8時～17時半 ※吉都線利用

えびの市…「えびの市の地域公共交通の現状と課題について」

小林市 …「小林市の地域公共交通の現状と課題について」

3 視察の内容

■ えびの市「えびの市の地域公共交通の現状と課題について」

- ・公共交通全般について
- ・コミュニティバスの導入検討とタクシー利用助成事業の導入について
- ・タクシー利用助成事業について
- ・JR吉都線について
- ・路線バスについて

※研修後、施設見学あり～ えびの市観光交流センター（JR京町温泉駅敷地内）

■ 小林市「小林市の地域公共交通の現状と課題について」

- ・公共交通全般について
- ・地域公共交通計画の策定について
- ・JR吉都線について
- ・市内高等学校通学費助成事業について
- ・タクシー、福祉タクシー利用助成事業について

※研修後、施設見学あり～ 小林市地域・観光交流センター「KITTO小林」

4 委員感想等（別紙添付）

5 添付資料

■視察の状況（写真）

○えびの市の様子



(研修風景)



(集合写真)



(施設見学)

○小林市の様子



(研修風景)



(集合写真)



(施設見学)

総務委員会行政視察報告書（感想等）

委員名 畑中 ゆう子

1 視察の感想

今回の視察で吉都線を利用し、えびの駅・京町温泉駅・飯野駅・小林駅を見学しました。えびの駅の駅舎には門松が置かれ、どの駅のトイレもきれいに整備されており、管理する自治会へ駅見守り報償金が年間 6 万円支出されていました。

京町温泉駅は観光協会に管理委託、観光・仕事・帰省する方へのレンタカーが常駐設置され、15 分 150 円ガソリン代込みで 6 時間まで使用できるようになっていました。

えびの駅には携帯電話の出張サポートサービスが開設されており、高齢者が吉都線を利用して貰えるように様々な工夫をされているのが印象的でした。

以前は、えびの市の小中学校の遠足で高崎町の天文台へ吉都線を利用されておられたそうです。現在は、吉都線ダイヤ改正で時間帯があわなくなり利用できなくなったことがわかりました。とても残念なことだと思いました。

えびの市のタクシー利用料金助成事業は 65 歳以上の方が利用でき、タクシー料金の約 4 割（上限が 1500 円）を助成するもので、4 月に 48 枚、9 月に 48 枚の年 2 回発行されており、福祉タクシー券と併用することも可能で高齢者にとって大変利用しやすい料金になっています。令和 3 年度は 48 枚でしたが令和 4 年度から「遠慮なく使ってもらえるように、枚数を 2 倍にした。安心して使ってもらえるように配慮した」とのことでした。令和 3 年度はワクチン接種分のタクシー券を 4 枚配布されており、コロナ禍の高齢者にとって満足度の高い助成事業だと思われます。

小林駅周辺整備事業は、総事業費 8 億 875 万円をかけて整備されました。駅前の地域観光交流センターは、高校生を中心に市民の皆さんが日常的に交流できるように整備され多くの高校生で賑わっていました。西小林駅には洋式トイレを整備され、吉都線利用促進事業として令和 4 年 3 月に飯野駅・小林駅までのひと駅ウオークが開催されています。参加者がすぐに定員に達し好評だったそうです。

小林市の市内高等学校通学費助成事業は、路線バスの利用促進を図るため、定期券購入費用の一部、年 3 万円を上限に助成する事業ですが、少子化の影響で利用者は減少していました。スクールバスを利用している高校生にも利用できるようになってるのが有り難いと思います。

小林市の福祉タクシー利用料金助成事業は、車両を保有していない 75 歳以上の高齢者や重度障がい者の方が利用でき、利用券は 1 枚 500 円、年間 30 枚が上限で 1 回の乗車に 4 枚 2000 円まで利用できるようになっていました。本人と他の人が同乗する場合も利用できる。利用券を持っている 2 名が同乗するときは、合計 8 枚まで利用できるなど、通院や買い物利用にも大変便利だと思います。

2 視察の成果及び市政への反映等

吉都線が、通勤・通学、通院、買い物をはじめ生活に必要な地域の移動手段であり、観光や地域の産業振興にとっても大事な基盤であることを再認識することができた行政視察でした。

人口減少が続き、高齢化するもとで吉都線を維持・活性化させることは地方再生を本気で追求するために大切なことだと思います。都城市は、日豊本線と吉都線を利用する方々の拠点となっていますが、えびの市・小林市に比べて利用促進するための手立てが遅れていることを肌で感じました。利用してもらうために駅をどのように活性化するか、地域の自治会の皆さんが集まりやすい環境づくりなど、具体的な手立てが必要だと思います。元気な高齢者や高校生が利用しやすいように、どのように繋げていくのか。コミュニティバスの利用と一緒に進めていく必要があると思いました。

子ども達に利用してもらうための無料パスポート配布事業など、公共交通を体験してもらうことが未来への利用啓発につながると思います。

鉄道やバスを利用できなくなった高齢者に、タクシー利用料金助成事業は、やはり必要だと感じました。バス停まで歩けなくなった高齢者にとって、必要最低限の外出するための手段としてタクシー利用への補助事業は急務の課題だと思います。えびの市は、安心して使ってもらえるように 96 枚の利用券を発行し推進しています。タクシー利用券を、使っていないけど持っているだけで、いざという時の安心につながるものだという事業は、高齢者にとってなくてはならないものだと感じました。

小林市の高校生の通学補助事業は、市内の高校に通学している高校生だけに利用されている事業ですが、須木地区と小林市内を結ぶ公共交通路線に適用されています。

沿線に住む高校生がバスを利用することが、路線バスの維持につながるのであれば、本市でも積極的に保護者負担の軽減にもつながる通学補助事業を展開する必要があると考えます。

今回の行政視察は、「地域公共交通の現状と課題について」というテーマで、えびの市・小林市で企画課、政策課、建設課・長寿介護課など、多くの課にわたって対応して頂きました。心から感謝を申し上げます。

以上

総務委員会行政視察報告書

委員名 中村千佐江

1 視察の感想

【えびの市】

タクシー利用の助成の件を中心にお話を伺った。

コミュニティバスは、実証実験の結果、導入を見送ったことは資料を見ればわかったことだったが、実はドル箱路線を見込める路線もあったなことなど、対面だからこそ聞き出せた話があったと思う

予想していた地区以外でも利用が活発であることも意外であったが、本市でも同様の事態は見込めるのではないかと思う。

公共交通機関と言う概念は、今後、“既定路線にて運行される乗合のもの”ではなく、“公共機関が直接的に利用助成を行う交通手段”に、言葉の理解を変容していくことも必要ではないかと感じた。

【小林市】

市内高校生に対するバス助成へのお話等を伺った。

近年、えびの市もそうだが、小林市から本市の高校に通う学生が以前よりも急に増えたように感じている。彼らは助成対象でないのだと思うと、心苦しい思いがした。

イベントの企画等、吉都線の利用促進に対し、一生懸命だという印象を受けた。また、盛況の様子を聞いて、ローカルTVや新聞等のメディアでもっと取り上げて欲しいと思う。

そして何よりも、私たち沿線住民の一人ひとりが、吉都線を利用し続けることが大切だと切実な思いを受け取った。

2 視察の成果及び市政への反映等

タクシー利用券は、福祉目的以外にも助成の対象を広げ、多くの市民が積極的に利用できるようにする価値はあるのではないか。検証の必要性を感じる。

小林駅に整備された多目的スペースは、都城駅にこそ需要がある。JR、市観光協会等と連携しての整備を提言したい。ニーズの調査が必要だと考える。

吉都線利用については、人口の一番多い本市が、市民への呼びかけをもっと積極的に行っても良いのではないかと思う。全国でも数少ない気動車が走る路線であることなど吉都線の特長などを市民にアピールし、市民が吉都線を身近に感じる取り組みがあると良い。

まひの市、小林市の地域公共交通 No.1

の現状と課題について(視察・研修)

新城市議会 総務委員会

(1) 日時 令和4年12月20日(火)

徳留八郎

(A) まひの市の公共交通機材

① 平成26年度よりコミュニティバスを始めたが利用者が少く(理由にバス停が遠く利用出来ず)意見多く、平成27年度より「タクシー」タクシー代替「タクシー利用料金助成事業」を推進
令和4年度から「タクシー代替」配布枚数は月4枚から月8枚に倍増される。
タクシー配布枚数 月4枚から月8枚に増加

※ 1枚当り 平均助成金額 ~ 490円 1回当り 平均利用距離 ~ 3.9km

※ 制度利用者 平均年齢 82.3歳 ※ タクシー事業者 6事業者 ~ 21台

※ 財源: 心のふさと基金繰入金

※ 利用目的: ほとんど病院・商業施設への移動

(2) JR吉都線利用促進に係る取組み

※ 駅(市内4つの無人駅舎)の清掃巡回・環境美化活動等
に対する謝金(年額60,000円上限)を支出。対象4団体

※ JR吉都線はまち社会活動 ~ JR吉都線団体の議決による
まち社会による、駅舎10ヶ所への植栽等の沿線活性化
令和4年度は同会主催による「快脚列車」運行を計画。

※ 京町温泉駅に観光交流センターを併設(平成30年7月5日)
観光交流センターに市観光協会が入り案内所、休憩スペース併設
令和4年度より(10)トヨタレンタカー常駐設置。

(スマホ1台の予約、解錠等全て完結。15分150円から利用可能で1枚利用後のガソリン負担対し(6時間以内の貸出しに限り)

※ ペグタイム時刻表の作成 配布 ~ JR吉都線 富交路線バスの時刻表を2,000部作成し市内公共施設等に常備する。

③ 路線バスに比べて ~ 富交路線以外が小林→京町行き11便
京町→小林行き10便 ④ 地域内路線バス補助 低コスト(6月定期)に購入費用(15,000円)の半額助成等

① 小林市の公共交通機関

① 公共交通全般について

① 市内高校への宮交路線バス定期券購入助成制度を平成29年度から実施している

② 高齢者等の自動車運転免許更新の返納状況は平成30年度が210人、令和元年度 239人、令和2年 257人、令和3年 219人

③ 65才以上の運転免許自主返納者の特例制度として、こじこーテイバス 返納者乗車証(小林警察署にて1人1回無償交付。3年間有効)提示 1乗車200円+00円割引(宮交) 高交 高交バス(200円券×10枚 1人につき1回限り) → 三和交通(株)

② JR首都圏について

※ 小林駅周辺の整備によるJR利用促進について影響

小林駅の利便性の向上として平成27年に南北通路の完成、平成29年に観光の窓口として小林地域観光 交通センター「KITTO 小林」を整備する。

(平成26年度比 平成30年度 5年割) 総乗客数 8億1000万回当

※ 市内高等学校の利用し通学する生徒にJR路線バスの利用促進
H29年度 定期券 87人 - 19,164円 H30 59人 - 16,914円、令和元(51) - 14,420円 令和2年度 40人 - 11,431円 令和3年 29人 - 8,404円

② 都城市に対する要望や提案等

① エルピー市や小林市共通共 学舎や高齢者に対して交通弱者対策に財成や心配配慮が、行き届く努力を付されている。

② 特に小林市は「KITTO」の整備で2F建の施設を市民に開放して(無料)。しかも駅を中心とした行事が行われて

「KITTO」にはエレベーター付きという高齢者や身体障害者等弱者対策に充分に配慮がなされていると思いつつ、都城市は西都城市駅には高齢者や身体障害者等にも、むと

越城市も力をいれるべきではないか。都城市民の全体要望をもち、鉄道高架がかけられ2F建の西都城市駅舎が存在するわけでも、JR自体に於て現在は、その財政的にかたがたが、おのて、越城市の心理的負担を軽減し活用する、単年度で予算が終了と思われ、

エレベーター設置は

(えびの市)

総務委員会 委員名 神脇 清照

1. 視察の感想

えびの市においては平成24年より、コミュニティバスを運行しているが、予約制に対する抵抗感やバス停が遠く利用できない等の理由で、利用者が少ない状況にあり、支障なく外出できる環境を整えるため、平成27年度よりタクシー利用料金助成事業を実施している。

以前よりサービス水準の高い福祉タクシーの需要もある中で、タクシー利用助成内容も年々充実して利用者も増加傾向にあり、高齢者にとって外出機会も増え効果が出ているように思う。

JR吉都線利用促進に係る取組みにおいては市内の4つの無人駅(えびの飯野駅、えびの上江駅、えびの駅、真幸駅)を各地区のボランティア団体が清掃、巡回、環境美化活動、駅舎イルミネーション点灯、植栽など沿線活性化活動を実施しており、各駅舎を利用する人達も心地よく感じているように思う。

又、市内の高齢者がJR吉都線を利用してえびの駅を訪れることを想定し、市内に携帯電話ショップがないことから、専門の業者が出張サービスを駅舎で実施したり、京町温泉駅には観光交流センターが併設され、レンタカー常駐設置等京町温泉を核とした「にぎわい」の創出にも寄与しており効果のある取組みに思っているようにある。

2. 視察の成果及び市政への反映等

高齢者の利用目的が程ど病院や高齢施設への買物等の初動であり、出掛けることで健康増進、又、人と接することで生き甲斐にも繋がります。一層の支援で利用率も上がり、交通弱者にとっては重宝な施策であるように思う。

運送収入の面においても、県全体の運送収入減少率より、えびの市の減少率は緩やかにあり、タクシー利用助成金制度を通じて間接的に交通機関維持と経済活性化にも有効で、市城市でも取組みたい事業である。

JR吾郡線については、本市においても日向庄内、谷頭、万ヶ塚、東高崎、高崎新田、日向前田の6つの無人駅があり、各駅舎の利用者や地域の方々から倦しい面も耳にすることがあり、えびの市の各種取組みを参考に沿線活性化活動を仕掛ける必要があるように思う。

都城駅においても、日常の利用者やこれからの観光客を見据え、駅舎や周辺の利便性や魅力をアピールできる整備が求められる。

(小林市)

1. 視察の感想

小林市の地域公共交通の現状として、市内にはJR吾郡線、路線バス、コミュニティバス、福祉バスがあり、JR小林駅と各地区における地域生活文化拠点を結ぶネットワークを形成している。

路線バスは宮崎市、都城市、えびの市、高原町と結ぶ7路線が運行、コミュニティバスは市内11路線、福祉バスは野尻地区6路線、須木地区1路線が運行している。

JR吾郡線は小林駅と西小林駅が立地し、主に通勤・通学の手段で利用されされているが、乗車人数は年々減少傾向にあるようである。

路線バス、コミュニティバス利用者もコロナウイルス感染症の影響を受け大きく減少し、路線の維持、確保のため、市財政の負担が増加傾向にあるように思う。

福祉バスは、高齢者や障がい者等といった交通弱者の外出機会の増加と交通利便性向上を目的に運行しており、利用者は減少傾向にはあるが、交通弱者にとっては助成等により割安に利用しやすく、又、福祉タクシー助成事業や、高等学校通学費助成等も負担軽減で喜ばれているようである。

特に交通便の悪い須木区域の高齢者や障がい者等を対象に、交通手段を確保しての外出支援サービスや、内山地区を含め小中学校児童生徒をスクールバスで送迎しての手厚い支援策に於いている。

2. 視察の成果及び市政への反映等

JR吉都線は8割以上が高校生等の通学での利用となっており、路線の廃止は将来小浜市を支える若年層流出にもつながりかねる危機感を抱え、都城市としても同様の課題があるように思う。

今、地方においては人口減少が進む中で、道路交通を基本とした街づくりであるコンパクトシティ化を推進することにより、地方路線の利用者が減少傾向にあるように考える。

そこで沿線の実情に応じた公共交通の確保という点で、本市としても沿線各市町と緊密な連携が必要であり、「JR吉都線利用促進協議会」を中心として、JR九州や地域住民とともに吉都線利用促進のなお一層の努力が求められる。

路線バスについては幹線交通を担い、通勤・通学の移動手段及び観光・ビジネスを目的とした交流人口を維持するための路線の維持や利用促進策の取組み、又、コミュニティバスや、福祉バス・タクシーも、利便性の向上を目指した取組みになっており、本市においても参考にしたい施策である。

小浜駅交流センター(KITTO小浜)は新たなコミュニティスペースになっており、バスセンター機能を持った「小浜バスセンター」と観光案内所が入り、JR小浜駅と併設されることで、鉄道と路線バスの接続、観光サービスの利便性が図られているように思う。

2階部分は貸切スペースとしても利用可能で、集会、会議、展示会、音楽ライブ、スポーツ教室、交通機関の待ち合いスペース、高校生等の勉強スペースなど、1年を通して休みなく、幅広く利用され駅周辺の活性化にもつながっている。

施設と併設された駐車場は無料で利用されており、都城市も人を呼び寄せられる施設整備で隣接している駐車場も含め賑わいのある都城市が待ち望まれる。

総務委員会 行政視察 報告書

視察の内容と感想

自動車運転免許証の返納状況について

- 農地を所有している高齢者は農耕車両が必要不可欠のために返納者が鈍い。

地域公共交通について

- 中山間地域の人口減少と少子高齢化により通学学生は減少し、保護者等の送迎に依存の割合が高い。
理由として、運行時間帯が合わない。

感想として、

- 免許証自主返納者の問題は、家族会議は、もとより高齢者同士の講習や交通事故等の会談で自ら返納に繋がるきっかけが必要と思う。
- 駅施設管理等については、JRだけでなく、沿線自治体と周辺地域住民の連携が必要と考える。

研修の成果及び市政への反映等

自動車免許証自主返納について

- 高齢者が安心して暮らせるための移動手段の確保を構築し、免許証自主返納者が進むために単独の自主返納促進事業の対応策も必要

地域公共交通について

- イベント開催においては、駐車場確保に困難を避ける策として、公共交通利用の推進
- 高齢者による事故抑制につなげる策として路線バスや吉都線利用促進のために助成事業の取組を提言。
- 中山間地域に居住する高齢者の利用内容について調査が必要

総務委員会行政視察報告書

委員名 羽田野 徳寿

1 視察の感想

今回は、「地域公共交通の現状と課題について」えびの市と小林市を視察させて頂いた。

・えびの市

～コミュニティバスについては、地形や集落の成り立ちによるルート選定と所要時間、そして行政の投資額等から断念されたようである。

結果的に、目的地まで直通で行けるタクシー利用助成事業を進めており、75歳以上の高齢者には好評であるとのこと。

路線バスについては、宮崎交通の赤字を小林市と補填しながら市内の公共交通としての最低限の役割を担ってもらっている状況。

JR 吉都線については京町温泉駅に新たに観光交流センターを併設し、市の観光協会が入っている。ガラス張りで明るく、レンタカー事業も行っている。

学生等のために市内の4つの無人駅舎の主にトイレ清掃等環境美化に報奨金（6万円）を支出している。

高齢者が **JR** 吉都線を訪れることを想定して、えびの駅における携帯電話サービスを行い吉都線利用の促進を図っている。

★感想

高齢者については農業従事者が多く、トラクターなど農耕車を運転する必要があることから自動車が乗れる限界まで運転免許を返納されないという実情がわかった。高校生をはじめ駅利用者のためのトイレ設置や清掃は必要不可欠と考える。

・小林市

～平成29年度から市内高等学校通学日助成制度を実施しており、コミュニティバスについては、免許証の返納者乗車証の提示により割引を行っている。

福祉バスも回数券を交付しているが、利用率は高い状況とは言えない。

★感想

JR 小林駅の北側に新たなコミュニティスペースとして「KITTO 小林」が併設され、非常に利用頻度の高い施設となっており本市にも生かせるのではと感じた。

2 視察の成果及び市政への反映等

本市も他都市と同様、公共交通の利用者は毎年減少している。

状況は非常に厳しいと考えるが、今回の視察において少子高齢化を背景に、利用者を増加に転じるための方策の一つとして **JR** 都城駅の利用率向上の必要があると感じた。

都城市の玄関口、顔として又、他の公共交通との接続地点としての役割、そしてコンサートホールや図書館、リモートオフィスなど多様な人が集まり、地域の文化や歴史が共有できるような場所であってほしいと思う。そのためには、都城駅舎の2Fを利活用するなどリニューアルして市民の交流の場として整備するべきではと感じた。

総務委員会行政視察報告書（感想等）

委員名 綿屋 善明

1 視察の感想

初めて行政視察をさせていただきました。受け入れ先ご担当者の皆様の細やかなご配慮に、まず深く感謝申し上げます。

今回、地方公共交通の現状についての視察ということで、吉都線を利用して各視察地へ移動しました。朝夕の通学時間を除いて、あまりに少ない利用者数に大変驚きました。廃線にした方が、JRや沿線自治体の経済的負担を減らせるのではと真剣に考えました。しかし、えびの市役所での説明の中で、休日、飯野高校の生徒さんが吉都線を使って都市まで出掛けてこれられるとのお話を伺い、通勤・通学だけではない公共交通の使命があるように感じております。

小林市で、「西小林駅の整備・管理事業について」ご説明いただきました。地域のお声から駅前にトイレが整備された。それを地域住民が清掃・管理されているとのこと。先のえびの市の例と併せて、各世代に様々な理由で公共交通を利用していただく。乗り降りする駅やバス停とその周辺を、地域住民が連帯して守り整備し盛り上げていくことが、必要であると感じました。

2 視察の成果及び市政への反映等

①タクシー券の利用について（えびの市）

「タクシーから路線バス（高速バスを除く）やJRに乗り換えたことがありましたか」とのアンケートに、「たびたびあった」と答えた方が全体の4.7%との結果が示されております。平成30年度が4.0%。令和元年度が4.1%。直近の令和3年度が、4.7%とわずかながら上昇傾向にあります。全体と比較すると、ごくわずかではありますが、時刻表を見て乗車時間から逆算しタクシーに乗れば、吉都線や路線バス乗車の待ち時間を極力減らすこともできます。公共交通を使う上で、待ち時間を短縮できること、乗り換えを減らせることは重要な視点であると考えます。

ご高齢の方を対象としているため、えびの市外に出られる数自体が少ない、というのは高齢者だけの遠出を億劫と感じられるのでは、と思うと当然のようにも思います。しかし、外出それ自体は伸びています。「外出する回数は増えましたか」との問いでは、「減った思う」との回答に、平成30年度が5.3%でありましたが、令和3年度には4.8%になっております。コロナ禍も手伝ってか、ご高齢の方にとって、密集しない、時間の融通が良く、という利点のあるタクシー券を使ったタクシーの利用はわずかながら伸びております。また、ご高齢の方が自宅から飛び出して社会とかかわる重要な手段ともなっている、と考えます。

今回、えびの市様への視察で、福祉タクシーの利用が多かった点について質問しました。えびの市のタクシー業界の売り上げは横ばい、とのことでしたが、様々なニーズに応えるタクシー会社の参入を促すことで、競争が生まれよりよいサービスを提供し、まちに対する満足度が向上するものとも考えます。

② 駅トイレと駅舎利用について

小林市様では、西小林駅に隣接するトイレの管理を地元住民の有志によって管理されている、との説明をいただきました。JR や自治体に管理を任せるのではなく、“地元が守る”との姿勢が大切であることを学びました。これは、無人化した駅でもやはり必要であります。えびの市の飯野駅では、旧職員室のスペースを地元の方がサロンとして活用されておりました。駅に来られる方の憩いの場であると共に、旅行者の目を引く観光の場でありました。なかなか難しい課題ではありますが、地域と駅舎・バス停のかかわりを積極的に促す必要があると考えます。

たとえば、日向庄内駅のように、駅の目の前に公民館と広場を設置し、夏祭りや十五夜などで積極的に活用する。それにより、トイレや水場が必要になり、地域で管理しよう、となるのではないかと考えます。さらに、“わが町の駅舎”という意識が醸成されるのではないかと考えます。駅舎の有効利用について、JR 様の許可が必要であります。各まちづくり協議会、もしくは指定管理者を選定し、有効利用していくことはできないものかとも考えます。

KITTO 小林での視察から、都城駅を“高校生が集まる”、“高校生が学習できる”、ようスペースを作ってはどうか、と考えます。泉ヶ丘や商業、農業高校の生徒が利用する駅で、電車が来るまでリラックスできる、課題を済ませられることは、自宅までの長い通学時間で奪われる学習時間を確保する意味で有効かと考えます。また、より多くの高校生が集うことだけで、駅前のにぎやかさが創出されるとも考えます。

小林駅の2Fには高校生が自由に学習できるスペースが設けられております。1Fには、観光案内の職員の方が勤務されております。職員の方と高校生が接触しやすい雰囲気を感じました。駅係員、観光案内所職員、駅利用者が、それぞれ触れ合えることが、駅構内の雰囲気を良くし、ひいては駅利用、吉都線の利用を促進していくのではないかと考えました。

えびの市の飯野高校生が、休日に都城のショッピングモールへ遊びに来られる、と担当者から紹介がありました。今回の視察、また他県の駅舎を見て思う事ですが、駅舎それ自体を生活や観光の目的にしていく取組も一考の価値があるのではないかと考えました。

③ 路線バスの利用について

えびの市様が、えびの市田の神さあの里産業文化祭「路線バス乗車体験無料パスポート」を期間限定で発行されている、との紹介をされました。注意書きとして「『保護者の皆様へ』路線バス乗車体験にご協力ください」とあります。こうした“乗車体験”は、小林市様でも、「こばやし秋祭り 2022 での乗り方教室」として実施されております。乗り方を知らない、という方も相当数いらっしゃるものと考えます。

先日、本市の国際交流員の方とお話しました。その中で、バス停の表示が分かりにくい、とのお声をいただきました。たとえば、都城駅登山之口支所前行のバスの時刻表と、バスに備え付けられている電光掲示板に同じ番号をふってほしい、といったお声をいただきました。また、バスに乗るとき（これは電車も同じですが）、整理券を取らなければいけません。しかし、初めての方はそれがわからない、とも。自分自身が住みよい街をつくるためにも、多様な意見に対応することが必要であると考えます。

本市でも、「乗り方教室」を実施した上で、バス利用に対するモニターとして、観光客の一番多い時期に期間限定の「路線バス無料パスポート」を高校生以下限定で行ってみてはどうか。また、家族で乗車する機会を増やすことで、様々なご意見が生まれ、路線の見直し等のご意見を幅広く収集できるのでは、と考えます。